

1. 授業の概要(ねらい)

鉄道をはじめ、各交通事業者の観光に向けた取り組みを検討し、現状と今後の課題について研究します。また海外の鉄道などについても紹介します。本講義ではまた、地方の赤字路線の問題を検討し、学生に生き残り策を考え出してもらうなど、交通事業者の厳しい経営状況を理解していただきます。また、確定はしていませんが、必要に応じて、交通事業者をゲストスピーカーとして招聘し、お話を聞くことも検討しています。

2. 授業の到達目標

①鉄道事業者の事例を検討し、観光という視点から逆境にある地方鉄道の再生・活性化策を提案できる。
②学生が20年後、赤字鉄道会社の社長・鉄道本部長・観光部長になったと仮想して、地元の現状の深刻さ、人口減少の影響を真摯な態度で受け止め、若さで夢のある意見を持つことができる。

3. 成績評価の方法および基準

中間レポート(30%)、リアクションペーパー(20%)、期末テスト(30%)、授業参加態度(20%)の配分によって総合的に評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

テキストはなし、適宜資料を配布する。

参考文献

塩見英治・堀雅通・島川崇・小島克己編著

『観光交通ビジネス』 成山堂書店

佐藤信之 著 『鉄道会社の経営』 中央公論新社

5. 準備学修の内容

各回授業の最後に次回扱うテーマを示すと同時に、事前に見ておくべき資料等を示すので、問題意識を持てるよう、内容を確認すること。また、各回の授業内容を中心にレポートの課題を設定するので、各回の授業内容を十分に復習するとともに、自ら関係資料の調査等を行い、レポート作成に備えること。

6. その他履修上の注意事項

鉄道・航空など交通機関のニュースは身近でとても多い。興味を持って、新聞やニュースなどを読み、積極的な態度で講義に参加してほしい。欠席が授業回数 $1/3$ を超えた学生は成績評価の対象外です。遅刻・早退も授業参加態度に反映させます。また、リアクションペーパー等提出物の期限遅れも成績評価で減点します。

最後に今期は14回目がLMSによるオンライン授業となるので、各回の授業内容を注意して読んで下さい。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション、本講義の全体像などの説明
- 【第2回】 地方鉄道のあり方に関する提言
- 【第3回】 鉄道開通150周年(1)
- 【第4回】 鉄道開通150周年(2)
- 【第5回】 鉄道事業者の観光取り組み(1)
- 【第6回】 鉄道事業者の観光取り組み(2)
- 【第7回】 中間のまとめ(中間レポート提出)
- 【第8回】 鉄道事業者の観光取り組み(3) (GS予定)
- 【第9回】 バス事業者の観光取り組み (GS予定)
- 【第10回】 その他交通事業者の観光取り組み(1)
- 【第11回】 その他交通事業者の観光取り組み(2)
- 【第12回】 スローモビリティと観光
- 【第13回】 観光交通の営業戦略 (GS予定)
- 【第14回】 観光交通論のまとめ(LMSによるオンライン授業)
- 【第15回】 期末テストと全体まとめ 発表

※授業の計画はあくまでも当初の予定であり、COVID-19の状況、講師の都合・授業進捗によっては変更されることがある。